

授 業 科 目 名	保育者論	教 員 名	相 戸 晴 子	免 許 ・ 資 格 と の 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講 義	担 当 形 態	単 独	卒 業 要 件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN105	配 当 年 次	1 年 後 期		こども音楽療育士	
単 位 数	2 単 位			小 幼 コース	選 択	
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
一 般 目 標	<p>保育者に求められる資質と役割、保育者の仕事内容、保育者の専門性など、保育者という仕事の概論を理解する。</p> <p>(1) 保育に求められる資質と役割 保育者に求められる資質と役割について理解する。</p> <p>(2) 保育者の仕事内容 保育者の仕事内容を理解する。</p> <p>(3) 保育者の専門性 保育者は専門性を高め続ける仕事であることを理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 保育に求められる資質と役割</p> <p>1) 保育者に求められる資質を理解する。</p> <p>2) 保育者についての資格や役割を理解する。</p> <p>(2) 保育者の仕事内容</p> <p>1) 子どもの育ちを支える仕事内容を理解する。</p> <p>2) 保護者や家庭を支える仕事内容を理解する。</p> <p>(3) 保育者の専門性</p> <p>1) 日々の保育現場での学びや成長の仕方について理解を深める。</p> <p>2) 自己評価と自己研鑽についての具体的内容について理解を深める。</p>					
授 業 の 概 要	<p>保育者の職務内容について概観し、保育者として大切にしたい視点やまなざしについて学習する。また、保育者の学び合う姿勢が目指すべき保育の専門性を向上させていることを理解する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） ワークショップ「目指したい保育者像とは」（目標(1)-1）</p> <p>第2回：幼稚園教諭と保育士の免許・資格（目標(1)-2） 免許や資格の取得について、必要な単位やその内容について。</p> <p>第3回：保育者としての倫理（目標(1)-1, 2） 子どもの最善の利益の尊重、子どもの発達保障、保護者との協力、プライバシーの保護、チームワークと自己評価、利用者の代弁、地域の子育て支援、専門職としての責務。</p> <p>第4回：保育者の一日と具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざし（目標(1)-1, 2） 実際の保育者の一日の仕事を見学、または視聴覚教材にて視聴し、具体的な仕事の流れや内容の理解を深める。その仕事ぶりから保育者のまなざしを考察する。</p> <p>第5回：子どもの思いや育ちを理解する仕事（目標(2)-1）</p>					

	<p>保育者とは、子どもの思いを受け止め、寄り添い、理解する、また、子どもの心身の発達および活動の実態など個人差を踏まえ、子どもの育ちを支える仕事。</p> <p>第6回：子どもと一緒に心と体を動かす仕事①（目標(2)-1）</p> <p>保育者とは、子どもの生活や遊びを通して相互に関連を持ちながら、養護(生命の保持・情緒の安定)を目指す仕事。</p> <p>第7回：子どもと一緒に心と体を動かす仕事②（目標(2)-1）</p> <p>保育者とは、子どもの生活や遊びを通して相互に関連を持ちながら、教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を展開し、養護と総合的に取り組む仕事。</p> <p>第8回：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事①（目標(2)-1）</p> <p>保育における子どもの文化（絵画・造形、音楽、劇、絵本、児童文学、童話、遊具、映画等）</p> <p>第9回：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事②</p> <p>保育における子どもの感性を育む自然体験、自然の不思議さを感じる感性の大切さ。</p> <p>第10回：保護者や家庭と一緒に歩む仕事①（目標(2)-1）</p> <p>現代における子育て支援（保護者支援）の必要性、子育て支援が求められる背景と意義。</p> <p>第11回：保護者や家庭と一緒に歩む仕事②（目標(2)-1）</p> <p>乳幼児期の子どもと子育てに増える育児不安、子育て初期を支える意味。</p> <p>第12回：先輩保育者に学ぶ保育の仕事（目標(1)-1, (2)-1）</p> <p>保育の仕事をしている先輩保育者から保育の仕事について話を聞き、保育者についての実際やそのために必要な専門性とは何かを学ぶ。</p> <p>第13回：学び合う保育者①（目標(3)-1）</p> <p>保育の現場における保育者の成長、同僚との人間関係をはじめ、多様な人とのつながりによって相互にもたらされる支え合いのしくみ。</p> <p>第14回：学び合う保育者②（目標(3)-2）</p> <p>保育の現場における保育者の成長、保育者の省察と自己評価の蓄積がもたらす力量形成。</p> <p>第15回：全体のまとめ</p> <p>これまでの授業で学んできた子どもや子育て家庭を支える保育者の専門性についてのまとめと専門性を持った保育者になるための力量形成についてのまとめの授業を行う。</p> <p>期末試験</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>レポート提出20%、発表20%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>授業外学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、事前学修として入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。 ・事後学修として、講義で使った資料やノートファイル管理を徹底すること。また、講義で使ったテキスト箇所を必ず復習しておくこと。 ・その他、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。
<p>テキスト</p>	<p>特になし</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>汐見稔幸・大豆生田啓友 編『保育者論 [第2版] (最新保育講座)』 ミネルヴァ書房 2016年</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領 (平成29年告示)』</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針 (平成29年告示)』</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年告示)』</p> <p>『全国保育士会倫理綱領』</p>
<p>担当者からの</p>	<p>自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。</p>

メッセージ	
オフィスアワー	水・金曜日 14時～17時 その他の日時はメール等でアポイントを取って来室すること。